# 電動化が進む自動車市場と当社の戦略

2021年3月12日



# 20年度第3四半期実績と通期業績予想

#### 決算概況(20年度 第3四半期実績と通期予想)

(単位:百万円)

	2019年度	2020年度					
	通期	1Q	2Q	3Q	4 Q予想	通期予想	
売上高	120,577	15,524	21,312	27,670	27,800	92,300	
営業利益	764	△3,020	△782	1,092	110	△2,600	
経常利益	406	△2,589	△561	1,004	△50	△2,200	
当期純利益	△685	△3,190	△788	919	160	△2,900	

▶ 売上高 : 生産状況は1Qを底に回復基調が続き、3Qでは日本・北米・中国で前期に近い

水準まで販売量が回復

営業利益:原価低減、生産性改善活動により、損益分岐点が下がり収益体質改善

> 4 Q·通期:半導体影響等により販売量が減少見込み。販売量減による影響で利益減の予想

▶ 配当 :通期業績上方修正のもとで、復配(5円)に修正

## ダイカスト事業

(単位:百万円)

		2019年度	2020年度					
		通期	1Q	2Q	3Q	4Q予想	通期予想	
日本	売上高	59,500	7,232	10,972	13,760	13,100	45,100	
	セグメント 損益	△444	△2,069	△650	381	△260	△2,600	
-1671¢	売上高	30,633	4,742	3,868	6,262	6,600	21,500	
北米	セグメント 損益	635	△156	△167	449	120	250	
アジア	売上高	23,846	2,257	5,346	5,738	6,700	20,000	
	セグメント 損益	3	△995	36	132	280	△550	

※ 北米セグメントのメキシコ工場及びアジアセグメントの中国2工場は12月決算

→ 3Q : 各セグメントとも販売量前年に近い水準に回復し、セグメント利益プラスに

➤ 4 Q·通期:半導体影響で日本セグメントが販売量減で、利益減少の予想

## アルミニウム事業および完成品事業

(単位:百万円)

		2019年度 通期	2020年度					
			1Q	2Q	3Q	4Q予想	通期予想	
アルミ	売上高	3,993	646	748	1,018	1,100	3,500	
ニウム 事業	セグメント 損益	169	△41	0	36	5	0	
完成品	売上高	2,603	644	379	891	290	2,200	
事業	セグメント 損益	277	109	40	126	△20	250	

#### アルミニウム事業

- ▶ 売上:新型コロナウイルス感染症の影響からは回復基調。3Q売上高はほぼ前年並み
- ▶ セグメント損益:売上高の大幅減少を、2Q以降でブレークイーブンの水準まで回復

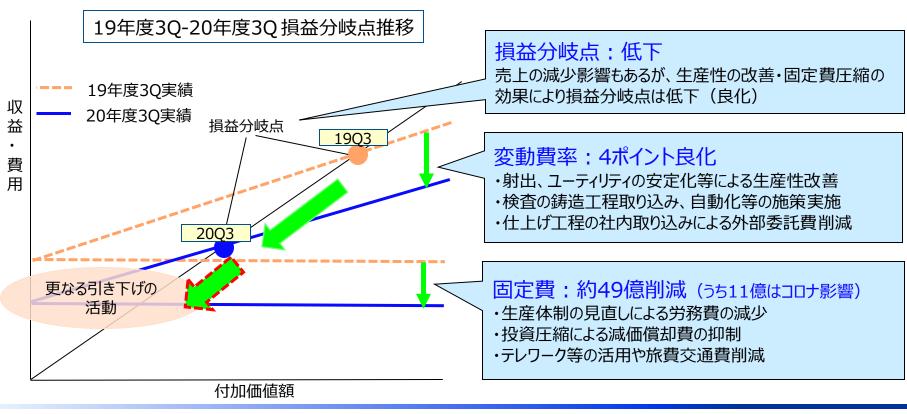
#### 完成品事業

- ▶ 売上:クリーンルーム等の大型物件の受注が前期を下回り減収。4Qは期ずれ影響で売上減予想
- ▶ セグメント損益:通期では減収となるが、原価低減等により前年並みの利益水準は確保



#### 自動車市場の変化に対応した収益体質への改善

19年度からの中期経営計画でリーン生産体制の推進により、損益分岐点も低下。 前年度3Q累計との比較では固定費の減少だけでなく、生産性の改善で変動費率も良化。



#### リーンな生産体制の実現

#### [生産工程の省人化事例]

- ◆ 設備改善、レイアウト変更によりオペレーター1人当たりの鋳造機担当台数が増加
- ◆ 工程内品質保証による検査工程取り込みにより、鋳造作業人数削減
- ◆ 自動検査機の導入、からくりの活用を推進
- ◆ アルミ溶解炉での材料投入の自動化

#### [動線短縮等によるリーン化の推進事例]

- ◆ 運搬作業等の動線見直しによる工程改善
- ◆ 外部委託作業取り込みによる費用削減
- ◆ 在庫の削減による外部倉庫返却(賃借料削減)
- ◆ 工場間の間接業務の機能統合による省人化



アルミ溶解炉(アーレスティ山形)

## 生産における情報技術の活用進展

	従来	現状の進捗	将来(イメージ)
製造条件		センシング	
状態		-	
生産技術		センシング + SQC <opcc※1></opcc※1>	+RPA×2/AI
<del>↓</del> △★	官能		
検査		自動検査	+RPA×2/AI
設備	修理+保全		
保全		保全+SQC	+予知・予兆
18+8/七光	マニュアル (人	手)+ロボット	
現場作業	マニュアル	レ(人手)+ロボット+からくり	+協調ロボット
<del>//</del>		紙	
作業標準		動画	+VR•AR

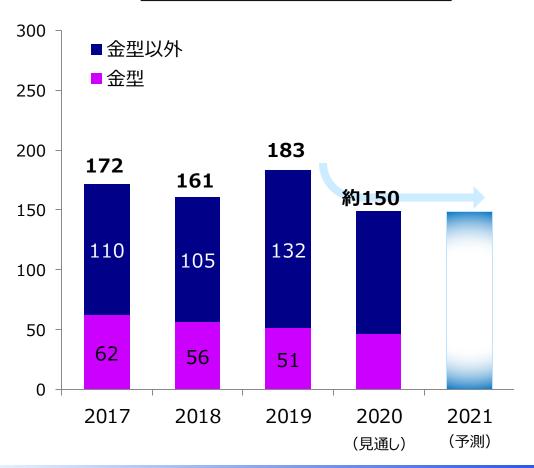
※1: OPCC(Optimal Process Condition Control)とは最適な良品製造条件管理のこと

※2: RPA(Robotic Process Automation)



## 効率的な設備投資によるキャッシュフロー管理

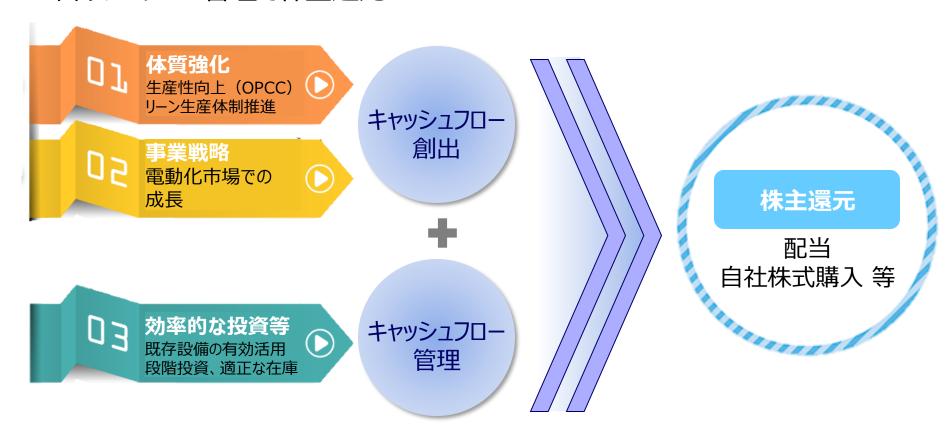
#### 設備投資額の推移(単位:億円)



- 2020年度はほぼ計画通り、2021年度も同水準で抑制運用
- 約6割強を占める新規増 産投資では既存設備の有 効活用、受注動向を見な がらの段階投資
- 新規増産以外の投資は生産性向上含めた維持改善投資

### 資本政策

◆ 体質強化と事業戦略によるキャッシュフロー創出、投資や在庫等の適切な キャッシュフロー管理で株主還元



### 主な表彰・受賞

- ◆ 株式会社SUBARU 『品質生産協力賞』
- ◆日産自動車株式会社『優良品質感謝状』
- Toyota Kirloskar Motor India
  - ·ZERO Defect(不良納入0個)
  - ·Quality(品質)
  - ・Delivery(納入)の3部門でアワードを受賞
- ◆スズキ『海外貢献賞』
- ◆ JATCO Mexico,S.A. de C.V. 『ベスト・パフォーマンス賞』 \*
- ◆いすゞ自動車 『品質優良賞』
- ◆ 三菱自動車工業『コスト優秀賞』
- ◆山田製作所 『優良感謝賞』







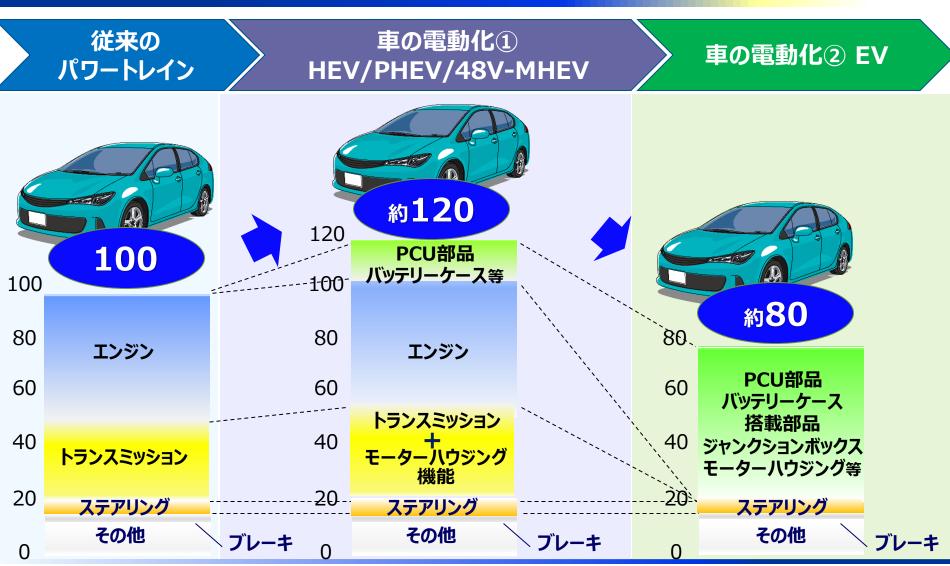
# 電動化が進む自動車市場への対応

### 搭載車種紹介

- HEV XV (SUBARU)ブロック/モーターケース/メインケース/エクステンション 等 6部品
- HEV CR-V (HONDA) IPUフレーム/トランスファーケース/トランスファーホルダー
- HEV FIT (HONDA) Lサイドカバー/アッパーカバー/ロアケース等 7部品
- HEV YARIS CROSS (TOYOTA) クランクケース/ベースプレート
- PHEV OUTLANDER (MITSUBISHI) フロントフレーム/ジェネレーターフレーム
- PHEV ECLIPSE CROSS (MITSUBISHI) ブロック/チェーンケース
- PHEV RAV4 PHV (TOYOTA) インバーターケース/コンバーターケース
- EV Mustang Mach-E (FORD) インバーターケース
- FCV CLARITY (HONDA) VCUケース/PCUケース
- FCV MIRAI (TOYOTA) コンバーターケース/リアクタークーラーケース



## 自動車1台あたりのダイカスト使用量の変化



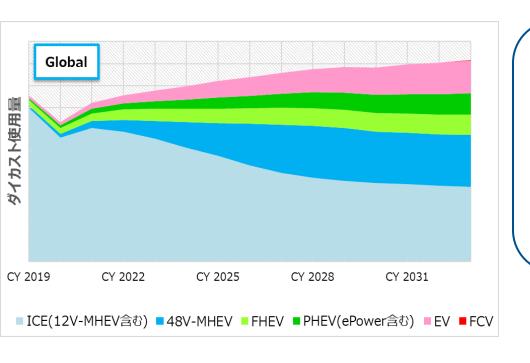
エンジン・・・エンジンブロック、ロアブロック、オイルパン、ヘッドカバー、フロントカバー、カムキャリア 等トランスミッション・・・ミッションケース、クラッチ、ハウジング、バルブボディ、サイドカバー、トランスファー、デフ 等



## グローバルダイカスト需要の変化(車体系部品を除く)

#### 【グローバル】

- ✓ ダイカスト需要は今後も成長
- ✓ EVにより今後新たなビジネス領域が創出
- ✓ 内燃系を持つ自動車(ICE、HEV等)向けも一定割合で持続



#### EV:

新たなビジネス領域として拡大 ⇒電動系部品の量産実績の経験 知識を活用して競争力を維持向上

HEV・PHEV・FCV: 既存のビジネス領域として持続 ⇒既存顧客基盤を活かし強化

©2021 IHS Markit Inc. All rights reserved (IHS2021年2月時点のデータを基に当社で予測作成)

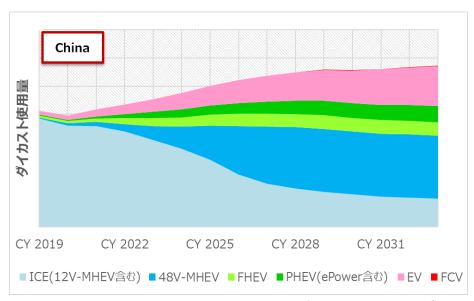


## ダイカスト需要の変化(中国、インド市場)

市場の拡大及び電動化スピードに応じた製品、技術戦略で成長を目指す成長市場の3拠点(中国2、インド1)を含めたマルチロケーションで強みを発揮

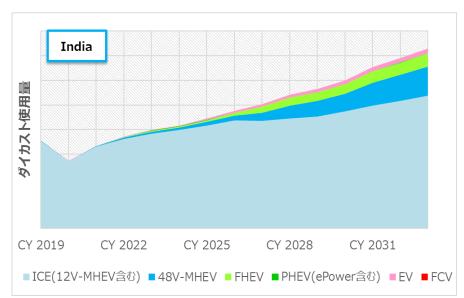
#### 【中国市場】

- ✓ 世界最大の自動車市場として拡大続く
- ✓ 政策により加速度的にEV化が促進



#### 【インド市場】

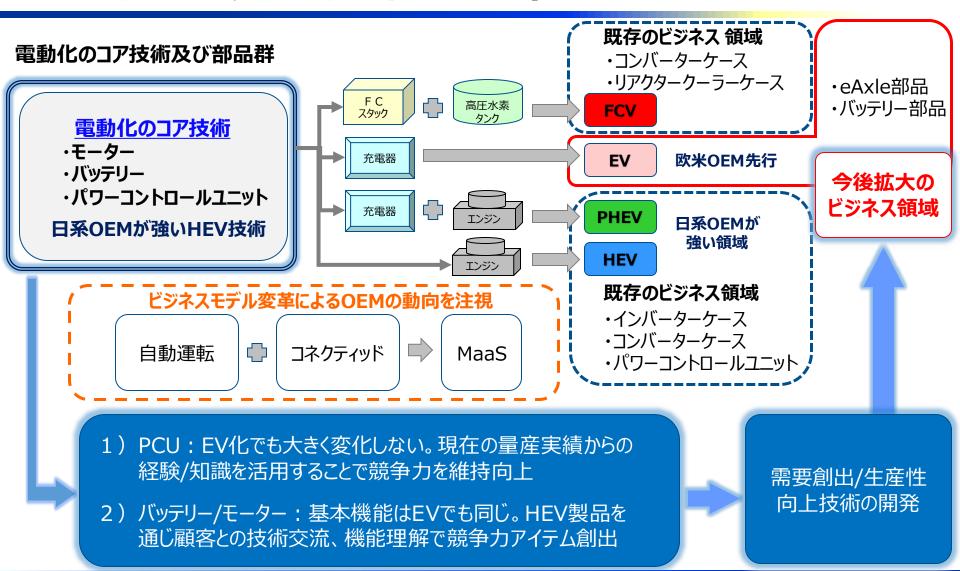
- ✓ 中国に並ぶ人口、成長マーケット
- ✓ 電力、インフラ事情によりICEが大半、HV等を 含むと9割以上が内燃系



©2021 IHS Markit Inc. All rights reserved (IHS2021年2月時点のデータを基に当社で予測作成)

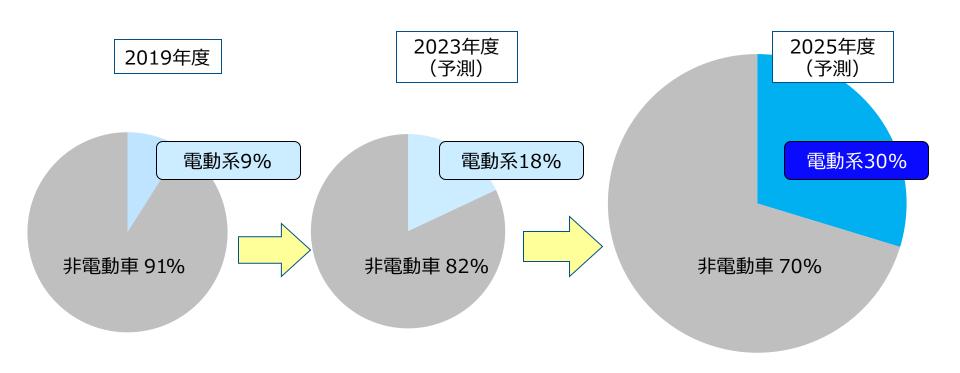


#### 電動化における既存・新規ビジネス領域への対応



# 今後の製品ポートフォリオの変化

■電動系搭載部品の売上シェア: 19年度 9% ⇒ 25年度 約30%



※電動系・・・電気をエネルギー源とし、電動機を動力源として走行するHEV、PHEV、FCV、EVの4種類の自動車。

# SDGsへの取組み

#### SDGsの取り組み

#### ■重要取り組み課題

社会課題解決に対しての貢献度が高く、かつアーレスティの事業との関連性が大きいもの 21年度より K P I を定め取り組みを推進



#### アルミダイカスト製品を通じた車の軽量化への貢献

⇒CO2排出量低減による気候変動影響の軽減



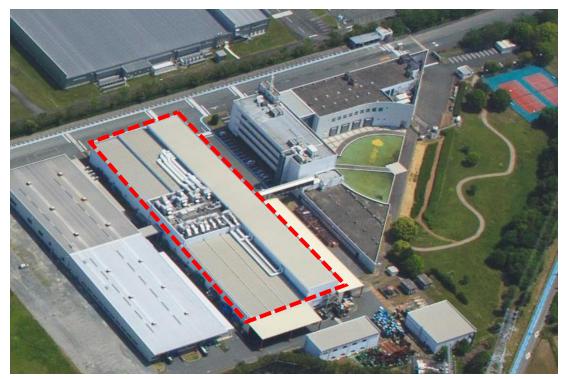
#### 生産効率の向上による使用化石燃料資源の低減

⇒エネルギー効率の改善

- ◆ 事業を通じた社会課題の解決による持続的成長
- ◆「サステナビリティ会議」によるSDGsへの組織的な対応を推進

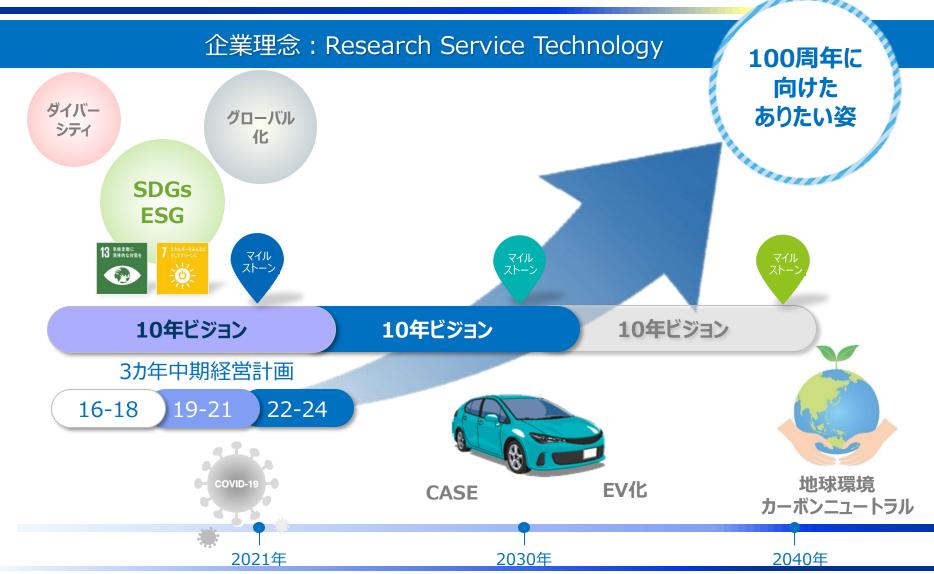
# カーボンニュートラルに向けて

- ◆ 設備投資計画におけるSDGs関連投資の明確化
- ◆ アーレスティプリテック豊橋第1工場への太陽光発電の導入(21年3月より稼働)



赤枠:アーレスティプリテック豊橋第1工場 太陽光パネル設置エリア

## 長期ビジョンの策定





視線はまっすぐ未来へ

#### 【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】 株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty\_MP0\_IR@ahresty.com

**URL:** https://www.ahresty.co.jp

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。